



木村金属株式会社本社



創業111年 限りある資源を無限大に 誠意・精進・継続 — 貫く老舗

金属スクラップの生業を初代が始め、今年6月、数えて111年にもなる非鉄総合卸がある。大阪市大正区に本社などを構える木村金属株式会社。創業の明治45年(1912年)は、山陰本線がようやく全線開通した、という年。銅分野の古いメーカーはあるが、卸・商店となると、1世紀と11年という老舗は稀。企業理念の「誠意・精進・継続」が支えてきた歴史や、複雑な市況環境のなかの今を、木村聡宏社長にインタビューした。

Q 新年、明けまして、おめでとうございます。
新型コロナの感染拡大から3年、国際情勢も急激に変化しています。そうした環境のなかで、木村金属は今年6月、111周年を迎えられます。

明治45年(1912年)の創業から2023年まで、1世紀と11年という歴史を支えた企業理念を教えてください。

A 創業以来、非鉄金属原料と銅スクラップのリサイクル事業を通して資源循環型社会への貢献を目指してきました。

「誠意・精進・継続」を心に置き、自社の利益追求のみでなく、お互いの信頼関係の継続を心がける。社のロゴマークはこの企業理念に基づき、木村金属の「K」を3色、仕入先、販売

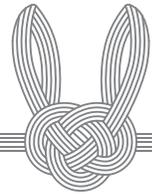


木村金属株式会社

本社所在地 〒 551-0023 大阪市大正区鶴町 1-1-61
電話 06-6552-7840 / FAX 06-6552-7842
ホームページ <http://kimura-metal.co.jp>
Eメール kimura-kinzoku@helen.ocn.ne.jp



創業	1912 (明治45)年6月	木村吉太郎が木村商店を個人創業
設立	1952 (昭和27)年3月	木村金属株式会社 設立
	1966 (昭和41)年10月	第2代社長 木村吉弥太 就任
代表取締役社長	木村聡宏	
	2005 (平成17)年1月に就任	



木村金属株式会社 代表取締役社長 木村 聡宏

先、自社に分け、お互いが支え合う形、いわゆる「三方よし」を表現しています。

「資源は有限、リサイクルは無限」と言われ、昨今は3R活動であるリデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)に取り組む企業の社会的価値が注目されています。

創業110年を超え、これまでご愛顧いただいたお取引様のご要望に応えるためにも、これからも前進とチャレンジを続ける企業でありたいと考えています。

Q 改めて、111年の実績、おめでとうございます。どのような感慨、思いでしょうか。(木村金属の歴史は別表)

A 創業時から人とのつながりを大事にということで、「三方よし」の精神を基本理念に事業に取り組んできましたが、長年にわたって商売を続けてこられたのも、ひとえに、需要家である製錬メーカー様はじめ、電線、銅管など伸銅メーカー各社様や、原料スクラップを持ち込んでくださる仕入先様、従業員の皆様のお陰です。深く感謝を申し上げたい。

メーカー各社様には、金属のリサイクルが今ほどは一般に注目されていなかった時代から、問屋に多大なる目をかけていた

ロゴマーク



企業理念に基づき、木村金属のイニシャル「K」を3色＝「仕入先」「販売先」「自社」＝に分け、「三方よしの精神」のもとお互いが支え合う形を表現している。またロゴカラーの赤と黄は「銅」と「真中」を、黒は他の「非鉄全般」を表している。

事業内容

1. 非鉄金属・各種金属の原料および地金の卸売、輸出入
2. 貴金属、金銀滓、電子基板の回収、売買
3. 合成樹脂成形品の企画、加工、販売
4. 合成樹脂原料、再生樹脂原料の売買
5. 不動産事業その他付帯事業

だき、直納問屋として大事にいただき、今日という日を迎えられるまで、とてもうれしいです。

次の時代、111周年を過ぎて次の10年、20年先を目標とした場合も、やはり、これまで築いた人と人との関係をいっそう深めていきたい、その繰り返しが一番の基本だと思っています。

特に銅スクラップは、脱炭素化とかSDGsで、リサイクル原料として、昨今でも一般の人も含めて注目されていますが、地金はやはりコモディティとしての投機対象でもあり、相場が大きく変動する金融商品化してしまっている。

そうしたなかで、原料問屋としては、必要以上に過大な設備投資というのはリスクを伴いますので、メーカーのように付加価値を高めていくには限りがあります。したがって、利益を着実に確保するためには、設備、情報インフラの近代化は大切なので、特にインターネットやSNSの活用といったことを含め情報の近代化を進化させていくということも行いながら、結局は、顧客や従業員といった「人的資源」がやはり重要になります。そこに、流通業の生命線的な部分があります。

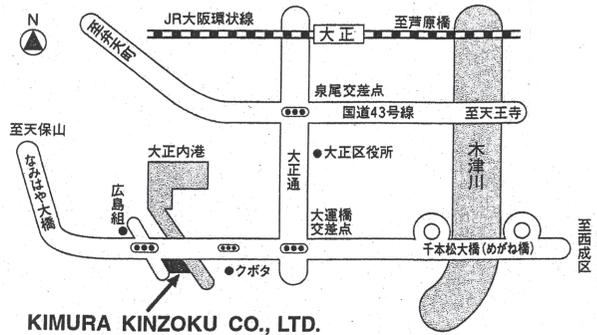
従って、販売先様のみならず、当然ですが先行する仕入先様もお客様だという意識をもって、良好な関係を続けていくことが、今後とも大事になると思います。



会社概要

*非鉄金属スクラップおよび地金の売買と、合成樹脂原料の売買およびプラスチック成形品加工販売を2大事業に、近年は金・銀など貴金属スクラップの拡販にも注力している。主な扱い商品は、銅、黄銅、青銅、銅合金、金銀滓などの非鉄金属スクラップ、地金、および合成樹脂原料、プラスチック成形品、再生樹脂リサイクル。

貴金属を除く足元の非鉄スクラップの扱い比率は銅スクラップが約80%、黄銅、青銅など合金スクラップおよび貴金属その他が約20%。銅系は1号銅線（ピカ線）や新切上銅



KIMURA KINZOKU CO., LTD.
1-1-61 TURUMACHI TAISYO-KU OSAKA JAPAN

Q うかがった歴史からつながる事業の特色や強みなどは？

A 繰り返しになりますが、やはり100年を超える会社の歴史です。非鉄総合卸の長年培ってきた経験と、問屋仲間との人的つながりが大きな強みです。それに、品質を見極めるためのネットワークもあります。

また、非鉄・銅中心に、事業多角化も図っています。

非鉄部門では、国内伸銅メーカー様向け長契枠の安定供給を軸とし、製錬所向け故銅に加え、仲間取引や金・銀などの貴金属スクラップ、それに廃基板などにも力を入れています。

多角化は、1971年からプラスチック事業に参入して半世紀がたちます。国内有力金型メーカー様



木村聡宏社長(左)と木村建登営業部長

のウワ物を、国内大手電線メーカーや銅管メーカーなどの伸銅所に、また製錬向け故銅を三菱マテリアル直島製錬所などに、さらに黄銅や青銅は黄銅棒メーカーや2次合金メーカーなどに供給し、仲間売りや輸出とも両立させている。

多角化事業として、プラスチック成形部門（合成樹脂部）があり、弱電や魔法瓶業界を中心に加工販売、金型の外部製作などを行っている。

*集荷エリアは、近畿、山陰、山陽、東海を含む西日本エリアを中心に全国。

*納入先は広く、各地の伸銅所、製錬メーカー、合金塊メーカー、商社、仲間問屋など

納入取引実績（順不動・敬称略）

三菱マテリアル株式会社 住友電気工業株式会社 古河電気工業株式会社 日本伸銅株式会社 キッツメタルワークス株式会社 N J T銅管株式会社（元住友軽金属）タイガー魔法瓶株式会社 角丁・合金塊メーカー 三井物産株式会社 三井物産メタルズ株式会社 三井物産プラスチック株式会社 アルミ銅センター株式会社 株式会社扇谷 豊田通商株式会社 豊通ケミプラス株式会社 国内有力問屋各社ほか

とタイアップして製品を提案し、成形までの一貫生産を行っているのが特色です。

Q 現在、今、最近の事業を取り巻く状況をどのように受け取っていますか。

A 大阪には、大手製錬メーカー、加工業者が立地、集積していたわけですが、時代とともにメーカーの工場が地方へ移転し、各地でリサイクルの輪ができるようになりました。当社も大阪の本社以外に、東京、博多に営業所を開設し、名古屋に集荷ヤードを設けた時代がありました。

スクラップが有価物である以上、集荷競争は昔も今も変わらないが、業界を取り巻く環境が大きく変わった。商流とか、輸出ルートという部分ですね。過去の延長上にはない部分が増えてきました。そういう感想を持っています。

故銅の集荷は元々、競争が激しい。戦前から存在する故銅業者だけでなく、2000年前後から台頭した中国系業者や産廃業者などの勢力との競合もあります。

特に、海外系輸出業者によるスクラップの流出が加速していますが、我々も国内でリサイクルするより海外に売ったほうが

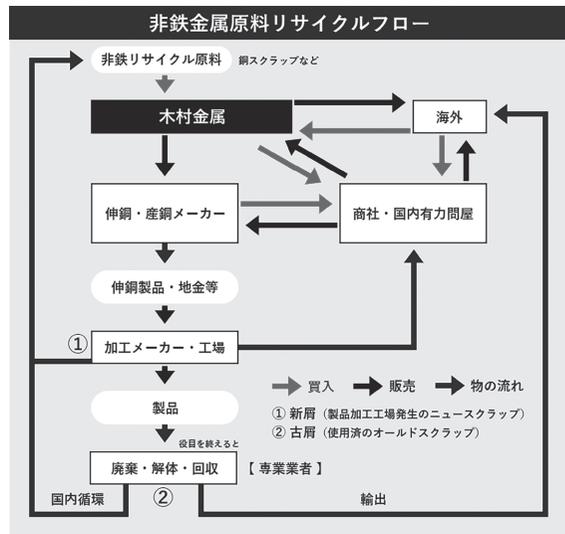


主要設備

天井走行クレーン4基、トラックスケール1基、プレス機1基、切断機2基、フォークリフト、営業車、立体駐車場ほか

所属団体

非鉄金属リサイクル全国連合会／関西
非鉄リサイクル協同組合



利益が大きい商材もあります。

ただ、国内リサイクルを標榜し、主にウワ物スクラップを中心に国内リサイクルをということやってきたわけで、そこはこれからも大事にしていく部分です。その上で輸出業者とも、競争相手というだけではなくて、国籍を問わずビジネスパートナーとして、パートナーシップを考えるというのも一つの手段になると、そう考えています。

国内業者、輸出勢問わず、価格面だけの競争ではなく、人との信頼で成り立っている部分が多いのです。

銅スクラップの国内発生は、タイトな状況が続いていますが、銅は資源全体の中でも特に注目されている金属。これからもその傾向は強いでしょう。特にSDGs、カーボンニュートラルが叫ばれる昨今、銅の需要は今まで以上に高まるでしょう。



ヤードに輝くピカ線

木村 聡宏 代表取締役社長 略歴

1955(昭和30)年 12月 兵庫県生まれ
1978(昭和53)年 関西学院大学経済学部を卒業
広告代理店勤務
1990(平成2)年 木村金属に入社
2005(平成17)年 1月 第3代代表取締役社長に就任
関西非鉄リサイクル協同組合理事
非鉄金属リサイクル全国連合会理事



趣味はモータースポーツ
観戦、テニス、温泉旅行

足元の銅相場は 20、21 年と右肩上がりでも推移しました。ここ数カ月の銅相場は天井感が出て、弱含んだ後、方向感が不透明ではあります。

銅相場は高値圏に到達した後、発生は低迷する一方、流通間での仕入れ競争は続いています。

思い起こせば私の社長就任後は、中国などの新興国の経済成長に伴い資源ブームが到来し、相場が急騰、非鉄金属が投機対象となり、銅資源にスポットが当たり、金融商品化しました。リーマンショックを経た後も資源としてさらに注目されるようになりました。

一方で発生はタイトになり、限られたパイの中で良い原料を安定供給していく必要がある。そのためには、顧客とのリレーションが大事になってきます。

そこでは情報の信頼性の重要性が増して、単にウェブ上での情報だけではなく、血の通った生の情報が大事になります。

インターネットで情報が取れるようになった今だからこそ、人と人とが直接会って情報交換する重要性も高まっている。

海外勢などプレーヤーが増えているが、それゆえ発生元に近づいてコミュニケーションをする必要があると考えています。

木村金属の歴史

創業者 木村 吉太郎

故木村吉太郎は、1938(昭和13)年の日本故銅統制会社設立に当たり、同社指定集荷代理店の関西代理店会会長に選任され、集荷業務を遂行した。

また、大阪非鉄金属懇和会(現 関西非鉄リサイクル協同組合)理事長、日本故銅問屋組合全国連合会(現 非鉄金属リサイクル全国連合会)会長などを歴任した。

〈受勲・受賞〉

黄綬褒章	1960(昭和35)年5月
大阪府産業功労賞	1964(昭和39)年5月
勲五等瑞宝章	1975(昭和40)年11月

Q 課題も含めて、事業で注力されていることや方針を聞かせてください。

A この10年弱の間は、金銀滓などの商材の拡大と収益向上を旨してきました。金銀滓、それから電子基板類にも注力しています。

商材知識と選別経験を活かして、高品質な銅スクラップをメーカー様に安定供給すること。この重要性がいつそう高まっています。ただ非鉄業者の強みもそれぞれで、長年の信用、資金力、広いヤードと充実の設備など様々ですが、都市中心部にヤードを置く弊社としてはヤード規模を拡大するより、金銀滓や電子基板屑の商売に注力しているところです。国内メーカー向けに長期契約と製錬所向けが当社の主軸ですが、金銀滓や基板はさらにソースを開拓していきたいと思っています。

また、この数年で特に力を入れ取り組んでいることは、新規仕入顧客の開拓です。海外系業者の中には1キロいくらの現金払いの一見商売も少なくないと聞きますが、当社では品位分析に基づき結果を見てから高価で引き取る。何より信用と継続を第一に商売をしています。

もう一つのプラスチック事業では、合成樹脂の原料売買、と

前社長 木村 吉彌太

1950(昭和25)年 3月 早稲田大学理工学部卒業 4月 木村合名会社 入社
1966(昭和41)年 10月 木村金属株式会社代表取締役社長に就任
1985(昭和60)年 5月 大阪府知事より産業功労賞受賞

〈団体役職〉

大阪非鉄金属商工協同組合理事長 1977(昭和52)年5月
(のちに相談役)

非鉄金属問屋組合全国連合会会長 1978(昭和53)年5月
(のちに連合会顧問)

大阪金属問屋健康保険組合理事
大阪金属問屋厚生年金基金理事

1912(明治45)年6月

創始者、故 木村吉太郎により同社の前身となる「木村商店」を発足。非鉄金属地金、製錬原料の売買を始める。

1928(昭和3)年

当時の国内金属資源の不足を受けて早くから米国の非鉄スクラップに着眼。同年渡米の上、アメリカの有力商社と直接契約し、業界に先んじて日本への非鉄スクラップ輸入の道を拓き、輸入業務を開始した。

1934(昭和9)年1月

個人経営を会社組織に改組し、「木村合名会社」を設立。

1938(昭和13)年～

第2次世界大戦の進行につれ非鉄金属類の統制(集荷と配給)が開始された。「日本故銅

りわけプラスチックの再生樹脂の拡販も強化しています。非鉄金属とは異なる分野ですが、プラスチック製造業としてメーカー様と直取引することで、お客様から海外展開などの豊富な情報が入り、非鉄事業にもリンクするため、次の一手の参考になります。弱電メーカーも銅を使用するため、銅の直接取引もできる相乗効果があります。

さらには、非鉄商品の品種の多様化にも対応していきます。相場商品であるだけに単価に目が行きがちになりますが、顧客とのコミュニケーションは大切にしていきたいですね。

これまでの歴史のなかで築かれた良い取引先様にも恵まれています。伸銅メーカー様と製錬メーカー様との両方と直取引し

統制会社」の設立に際し、木村合名会社は全国非鉄金属集荷指定代理店・関西総代理店に指名され、金属配給(地金の配給)及び故銅(屑の集荷、配給)の業務を遂行。故銅の集荷は当時全国第一位の実績を残した。創業者木村吉太郎は大阪非鉄金属懇話会(現 関西非鉄リサイクル協同組合)理事長、現非鉄金属リサイクル全国連合会会長などを歴任。

1952(昭和27)年3月

木村金属株式会社を創設。

1966(昭和41)年7月

大阪市浪速区木津川1丁目に鉄筋コンクリート3階建事務所と鉄骨スレート葺非鉄金属倉庫を新築し、天井走行式クレーン、トラックスケール、プレス機などの近代化設備を増強。

1966(昭和41)年10月

初代社長 吉太郎は代表職を当時副社長の長男、木村吉彌太に委譲、取締役会長に就任。

1971(昭和46)年2月

鉄骨スレート葺2階建工場を新增築。プラスチック射出成形機6基を設置し、主に魔法瓶関係の部品を製作、多角経営を図る。

1979(昭和54)年7月

取扱高の増大に対処するため、クレーン2基を増設。

1987(昭和62)年2月

プラスチック事業の操業度の飛躍に対応するため、西成区に鉄骨造2階建事務所、工場、平屋建倉庫を新築、射出成型機10基、その他諸設備などを設置。

2005(平成17)年1月

プラスチック成形工場の近代化と省力化に対応するため、油圧機から電動機への切りかえや自動化ロボットを導入。本社を大正区鶴町に移したうえ、非鉄金属ヤードを鶴町、プラスチック工場は東大阪市へと業務を分け、木村吉彌太の長男、木村聡宏が副社長から3代目代表取締役社長に就任。現在に至る。

ていることで、「ウワ物」と「すそ物」を同時にメーカーに直納できるのが強味の一つになっています。取引先様の力も借りて、合金など新しい分野の勉強もしています。「おかげさまの気持ち」を持って商売を続けていきます。



上銅(新切パイプ)

木村 建登・営業部長

営業部長は木村聡宏社長の長男。甲南大学経営学部を卒業、トーヨータイヤジャパンに入社し、2020年1月に家業の木村金属に入社。銅スクラップの検収や営業、合成樹脂部でプラスチック成形の手配なども担当している。

プライベートでは、学生時代からモータースポーツに参戦してきたレーシングドライバーの顔も持っている。



〈主なレース戦績2022年12月現在〉

- 10 北神戸フレッシュマンクラス チャンピオン
(初タイトル)
- 15 甲南大学体育会自動車部 学生選手権団体優勝
(全国制覇)
- 18 ルーキーオブザイヤー獲得(ヴィッツ)
- 19 2019関東シリーズチャンピオン(ヴィッツ)
- 20 九州オートポリス表彰台(86/BRZ)
- 21 九州オートポリス優勝(ヤリス)
- 22 MINI Challenge Japan JCWクラス チャンピオン



Q 入社して3年が経とうとしていますが、今後の事業への思いは？

A これまで、銅、銅合金をメインに手がけてきました。まだ仕事を覚えなくてはいけない段階ですが、銅、銅合金の工場発生モノの集荷に注力したいと思います。

そのなかで基板や金銀滓も増やしていければと。もう1点は、銅系スクラップ以外の商材も積極的に扱っていきたい。レアメタルの集荷などについても興味があるので、勉強していきたい。

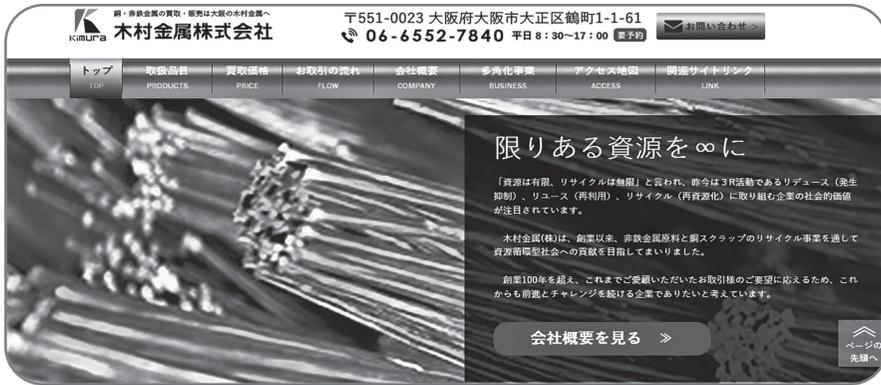
Q 歴史ある家業の会社についての思いは？

A 1世紀を超える老舗ではありますが、新しいものにも挑戦していきたいと思います。

個別営業以外にも、インターネットやSNSを活用した宣伝活



木村金属株式の Web サイト



動など、時代に合わせたやり方も取り入れていきたい。

例えば Web サイトは私の入社前にも一度リニューアルし、YouTube 動画による会社紹介や「銅業界リンク」のコンテンツを入れておりましたが、私の方でも「Twitter」などを追加しました。古い業界ではありますが、視野を広く持ち、改善を重ねて行こうと思います。

Q 昨年は、関西非鉄リサイクル協同組合の青年部に入会しましたね。

A 新型コロナの規制緩和により中止していた組合活動を再開すると聞き、仕事の幅や人的交流を広げるためにも青年部に入会しました。

先輩諸氏との会合は新鮮で、良い刺激をいただいています。交流を通じてもっと非鉄業界への理解を深めていきたいです。

Q レーシングドライバーとしても活躍され家業との“二刀流”ですね。

A 二刀流と言うと大げさですが、共通する部分もあると感じています。

レースも、仕込み 8 割。スタートまでの準備で結果が大きく変わります。仕事しやすい職場の環境作りや、取引先様との関係構築など、今の自分にできることを考え、実行に移していきます。

銅・非鉄原料は

ホームページはこちら▶
www.kimura-metal.co.jp



QRコード

木村金属株式会社
Kimura 大阪市大正区鶴町1-1-61

買取価格お問合せ

☎06-6552-7840